
アストレア・日和のそらおと ‘ ‘ 企画案 ’ ’

カルピスフロート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アストレア・日和のそらおと『企画案』

【Nコード】

N9534X

【作者名】

カルピスフロート

【あらすじ】

この小説は、作者の考えた小説の『企画案』を、2人のメインキヤラが、お試しでやってみる、作者の企画案シリーズです。この『そらおと』企画案』のメインキヤラは、アストレアと風音日和。『スマブラ』企画案』も現在執筆中！！

ファーストコンタクト（前書き）

記念すべき、初回の‘企画案’は、

『グータンヌーボ』をやります。

一応、この小説の企画会議を兼ねてます。

ファーストコンタクト

日和「新小説ですか」… 凄く楽しみです。」

風音日和（14）

hiyori kazane

J a c k e t やまむら

T a n k t o p セシルマクビー

S h o t p a n t s アズール

S a n d a l やまむら

日和「カルピスさんは『とりあえずアストレアと一緒にやる。』
としか言われてないから、本当に何をやるか分かりませんが、と
りあえず楽しみですよ」

日和「アストレアさんとは、原作でも映画でもあんまり接点が無い
んですよ。
あるとしたら1・2シーンだけですから、アストレアさんとも喋っ
て行きたいですね。」

先に店内に着いた日和…

店員「いらっしやいます。こちらのお席です。」

日和「イタリアンなカフェですね。凄くオシャレでいい雰囲気です
」

少し席を迷う日和さん。

日和「丸いテーブル……とりあえずここにします。（カメラ目線）」

奥の席に座った。

店員「こちらメニューです。後ほどお冷とおしほり持ってきますので。」

日和「ありがとうございます。」

スタッフ「その服は、今回のゲータンに合わせた衣装ですか？」

アストレア「そうなんです。嬉しい限りです。」

アストレア

a s t r a e a

H a t s

ミュールバウアー

O n e - p i e c e

ハニーズ

Shot pants ハニーズ

Shoes ABCマート

アストレア「作者さんが『衣装は今回だけ貸すから自由に選んで。』
って。」

普段あの服しか着ないですから嬉しい限りですよ。」

アストレア「アニメとか原作の公式のイベントは、いつも先輩とかがメインですけど、
わざわざ私たちの為に小説を作ってくれるなんて嬉しい限りですよね。」

『嬉しい限り』を幾度となく使うアストレア。

f i r s t c o n t a c t

アストレア「あっ日和さんだ！」

日和「アストレアさんこっちです。」

店員「おしほりとお冷です。」（「トッピン」

アストレア「ありがとうございます。」

マンガ「そらのおとしもの」で出演中の2人の濃密トークを
お楽しみください。

日和「メニューありますから、先に飲み物でも頼みますか。」

店員「お決まりでしたら、ご注文承ります。」

アストレア「そうですね。何にしましょう…」

日和「うーん…じゃあ、私はカフェオレで。」

アストレア「私はオレンジジュースで！」

店員「かしこまりました。」

準レギュラー兼スタッフのオリジナルキャラ

アストレア「で、今回って『企画会議グータン』って言ってましたし、なにかあるんですかね？」

日和「何がですか？」

アストレア「アレですよ！良くスタッフが持つてる奴ですよ！」

日和「カンニングペーパーですか？でしたら誰かスタッフがいるはず…」

アストレア「あー!!」

????「(スッ)今から手カンペ渡します。」

アストレア「真紀さんじゃないですか！」

日和「どうしてここに!？」

真紀『(スッ「私は作者のオリジナルキャラなので、準レギュラーをしながら、スタッフも担当しています。」』

日和「そうなんですか。」

アストレア「でもせっかくだから喋りません?」

真紀『(スッ「ダメです。」』

日和「なんですか?」

真紀「スッ「このロケの代金が作者が持つので、私まで入るとダメ

なんです。

「彼は節約家なので。」

アストレア「いいじゃないですか。グータンは3人でやっとグータンなんですから。」

それに3人で食べたほうがいいじゃないですか。」

必死の説得。

真紀「それもそうだな。じゃあ、自己紹介とか入れて欲しいな。頼むぞ作者。」

分かりました

by 作者

アストレア「じゃあカメラあるんで、真ん中にズレましようか？」

真紀「アストレアさん優しい〜。優しい所も、この企画に選ばれた理由の1つですよ。」

日和「え？選ばれた理由とか知ってるんですか？」

真紀「それはちゃんと作者からのメモがあるんですよ。」

アストレア「幾つか教えてくださいよっ！」

真紀「じゃあ、まず1つ。「アストレアと日和が特に好みだから」これはまあ妥当ですよね。
そして、もう1つ「原作のキャラが増えすぎて、影が薄くなってる（特に日和）」」

日和「影薄いですか？」

真紀「私はそうは思わないんですけどね。でも、映画のメインヒロインも演じて。
映画凄かったですよ。迫真の演技でしたから。」

日和「そう褒められると照れますね…。」

アストレア「凄かったですよ。私は最後のキスシーンが良かったです！」

真紀「私も！そのあとのセリフが良かった！あれは原作にも無かった映画だけのセリフで、
凄く考えさせられる一言でした。」

アストレア「ですよ〜。」

日和「ありがとうございます。確かに原作ではアストレアさんと実際に話したことありませんでしたし、映画でも1シーンだけでしたし。」

真紀「調理実習で日和さんのクッキーをアストレアが食べちゃうシーンしか無いですね。確かに。」

日和「でも、アストレアさんもグッズが凄かったじゃないですか。」

アストレア「グッズの量は確かに多かったです。」

真紀「作者のメモにも、「日和は『悲劇のヒロイン』アストレアは『魅惑のエンターティナー』だ。」って書かれてました。」

日和「一種の称号見たいなことですね。」

アストレア「なんかしっくり来ますね。プロフィールにも貼ってます?」

日和「それは辞めときます。」

真紀「ハハハハ…」

日和「真紀さんも飲み物頼みます？」

真紀「じゃあついでにご飯も頼みましょうか。」

アストレア「わーい ごはーん」

真紀「じゃあ…飲み物はアイスコーヒーにします。」

アストレア「ここっておむすび無いんですかっ!?!」

日和「ここイタリアンだから無いですよ（笑）」

真紀「たまにはイタリアンもいいでしょ?」

アストレア「じゃあ…何にしましょうか。」

真紀「私…決めてるんだよね。こういう所って、おいしいものが揃うから悩めますよね。」

アストレア「悩めますね〜（じゅるっ）」

よだれでてますよ（笑）

真紀「こういうときは必ずオムライスって決まってるんですよ!」

日和「オムライスもイタリアンかは微妙なような…
私は…ペスカトーレで。」

アストレア「ペスカトーレってなんですかっ!？」

真紀「魚介がたくさん乗ってるパスタですよ。」

アストレア「じゃあ…私はマルゲリータで！」

真紀「決まりですね。店員さん。」

店員「ご注文お決まりですか？」

真紀「え…オムライスとペスカトーレとマルゲリータ。」

店員「かしこまりました。」

(タッタッタッタ)

真紀「あ、あとアイスコーヒーも……！」

店員「アイスコーヒーですね。」

忘れかけてたアイスコーヒー。

日和「今の凄い滑り込みでしたね。フッフッ」

2人「ハハハハハつ。
」

準レギュラー兼スタッフのオリジナルキャラ（後書き）

作者「一応プロフィール載せておきます。」

アイバ マキ
相葉真紀

sex : women

age : 14

B 79 W 49 H 82

この小説の本編『そらのおとしもの。ほのぼの転生ストーリー（仮）』の主人公的な人。

前の人生で、止めようとしたタクシーに轢かれてしまったかわいそうな人。

実は転生するのは2度目。前は男で、今回は女で転生した。青髪のショートで、メガネを掛けている。

性格は几帳面で、まあまあ頭がイイ。

現在はアストリアと河原で生活しながら、空美中学校に通う。

ちなみに、財布の紐は真紀が握っている。

作者「あと、重大発表。」

真紀「ナニ？」

作者「実はこの小説を作る為に『そらのおとしもの。ほのぼの転生ストーリー（仮）』を作りました！！」

3人「ウソ~~~~~！」

グータンの醍醐味（前書き）

左ハジに出てくるサブタイトルみたいなのは、「」で表します。

番組中の、3人のトークにたいしてのコメントは、無印で表します。

グータンの醍醐味

「いよいよ、グータンらしい恋愛トークに。」

日和「最近、恋とかしてます?」

アストレア「唐突ですね。」

真紀「グータンっぽくなってきたね（笑）」

アストレア「そらおとって、男が異様に少ないじゃないですか。」

2人「うん。」

アストレア「実際、2択ですよ。智樹か先輩か。」

日和「確かにそうかも…」

「智樹or守形先輩」

真紀「じゃあ、守形先輩と、桜井さんだったらどっちがいいですか？」

アストレア「うん…じゃあ3人同時に言います？」

日和「じゃあ…決まりました。」

アストレア「私も。」

真紀「じゃあ…せーの」

アストレア「ともきっ！」
日和「桜井くん！」
真紀「桜井さん！」

3人「おー！」

全員一致！

アストレア「わっカブッた〜。」

絶対にカブリますよ（笑）

日和「じゃあこれからは恋敵ですね。みなさん。」

真紀「いや、それは無いと思う…どちらかと言えばだから。」

「主人公の桜井智樹の話に。」

日和「でも…私達って桜井くんとは結構離れた所にいるから…」

アストレア「イカロス先輩とかニンフ先輩はどーせーあいなんです

よっ！！」

真紀「確かにあの2人？は同棲愛だね。」

日和「もしかして、「桜井くんと距離が遠いから」っていう理由ですか？」

真紀「うゝん（ペラッ　そうではないみたい…でも、新大陸発見部じゃない人は、ちょっと距離あるよね？」

2人「確かに。」

日和「でも、そはらさんって桜井くんの事好きだし、桜井くんはモテモテでいいですね…
守形先輩と会長ってこれからどうなるんでしょうね。」

真紀「結婚するんじゃない？いつか。」

2人「え!？」

2人とも驚き過ぎ。

真紀「いや…………先輩が養子になると思っ。」

日和「…………」

アストレア「…………」

真紀「…………」

沈黙。

「再び恋愛話」

アストレア「真紀さんは恋愛とかの経験話とがあります?」

真紀「え！？…あっああ！！…うんうん。若いころは恋愛してたね
ー！（食い気味）」

アストレア「あるんですかつ！？」

真紀「甘酸っぱいよね！自転車乗ってて腰に手まわされちゃたりしてさ。」

日和「まわされ・・・？」

アストレア「漕いでた側だ」

「結婚について」

アストレア「私って結婚出来ますか？」

真紀「アストレアもそういうこと考えるの？」

アストレア「一応、エンジニアロイドって年取らないですし、
もしかしたら結婚する時ってあるのかなって…」

日和「やっぱりアストレアさんもそういうこと考えるんですね。」

アストレア「どういう人かいいんですかね？」

真紀「アストレアって、こつこつ店イタリマンの雰囲気合ってるから、
こつこつ店の人と…」

店員「こちら、マルゲリータです。」

アストレア「あつ。ありがとうございます…」

店員「（キラリ）大変熱くなってるので、お気をつけて召し上がりください。」

真紀「アストレアさん！こつこつ方ですよ…」

日和「チャンスです！チャンス！」

チャンス？

店員「こちら、ペスカトーレです。」

日和「あの…彼氏とかいるんですか！？」

店員「え！えつと〜」

真紀「日和さん積極的すぎ！」

店員「あの…オムライスとアイスコーヒーは後ほどお持ちしますの
で…」

アストレア「いきなりすぎますよー!」

日和「ごめんなさい…」

真紀「やっぱり意外と行動力あるんですね。」

ゲータンの醍醐味（後書き）

真紀の自転車の下りは、ある4コママンガを読んでる方は分かると思います。

ヒントはタグです。

食事しながらの企画会議（前書き）

今回でグータン編は最後です。

食事しながらの企画会議

店員「オ、オムライスとアイスコーヒーです……。。」

真紀「ほら。よそよそしくなったじゃん。」

日和「じゃあ、料理も揃ったんで、食べながら企画会議しましょうか。」

真紀「あ、そうだ。作者にこれだけはやってきてっていわれたんだけど、」

アストレア「なんですか？」

真紀「（ホワイトボードとパネルを取り出す。）」

2人「??」

真紀「とりあえず、今は2人がメインだから必ず出るんだけど、その他のそらおとキャラの出演頻度についてなんだけど…」

アストレア「それを私達が決めるんですか？」

真紀「そう！」

と、アストレアと日和を抜いた、そらおとメンバーの名前が1人ずつ書かれたパネルと、
ホワイトボード&ペンをテーブルに置いた。

日和「これ私達で決めていいんですか？」

真紀「食べながら決めていいから。」

アストレア「じゃあ食べましょうか！」

3人「いただきます!!!」

日和はペスカトーレをすすり、アストレアはマルゲリータをかじった。

アストレア「これホントおいしいです！！もう幸せ」

日和「このペスカトーレも凄くおいしい」魚介類も凄い新鮮！

真紀「作者もいいお店つけたねえ。」

アストレア「真紀さん食べないんですか？」

真紀「一口食べたけど。」

アストレア「味の感想とか行った方がいいんじゃないですか？」

真紀「オムライスってどこで食べてもそこまで味に差ないから。」

2人「／／／」

そっけない（笑）

「～食事＆企画会議中～」

日和「ちなみに真紀さんは？」

真紀「私は準レギュラー兼スタッフだから、主に出ない日はスタッフという立場です。」

アストレア「つまり私達の次ぐらいですか？」

真紀「つまる話そういつこと。」

日和「うーん…迷いますね…」

現在のパネル状況（「」がパネル。つまりアストレア・日和・真紀を除いた4位から決められます。）

—	アストレア	—
—	風音日和	—
—	—	—
—	「桜井智樹」	—
—	「イカロス」	—
—	「ニンフ」	—
—	「見月そはら」	—
—	「守形英四郎」	—
—	「五月田根美香子」	—
—	「カオス」	—
—	「オレガノ」	—
—	「ハーピー」	—
—	「桜井智代」	—
—	「ダイダロス」	—
—	「桜井智蔵」	—
—	「イカロスⅡメラン」	—
—	「セイレーン」	—
—	—	—

2人「（良くこんなガタガタのフリップ作れたな……）」

日和「私達が知らない人たちまでいるんですけど……」

真紀「大丈夫。作者もあんまり知らない人いるから。」

アストレア「それってまずいんじゃない？」

真紀「決められないときはパネル外していつていいから。そいつらは一生出れないけど。」

日和「じゃあとりあえず省いて行きましようか。」

こうして、アストレアと日和は食事をしながらパネルを取り外していく。

それを横目に真紀はおもしろそうな目でオムライスを貪っている。

〈10分後〉 ♪ ポツポ　ポツポ（鳩時計）

真紀「（チュー　　（ズルルル」（アイスコーヒーを飲み終えた。）

アストレア「あの…決まんです。」

日和「一回持ち帰っていいですか？」

真紀「いいよ。どうせ作者次第だから。」

ホントの事言っちゃった…

結局大した企画会議はしませんでした…

食事しながらの企画会議（後書き）

次回企画！！

対決企画第1弾！

新大陸発見部VSnot新大陸発見部！！

なにて対決するかは楽しみです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9534x/>

アストレア・日和のそらおと『『企画案』』

2011年11月10日19時08分発行